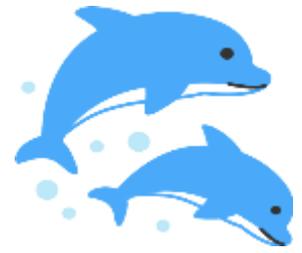


# NewsLetter



自治医科大学地域医療オープン・ラボ

Vol.190,AUG,2025

## 諦めない論文投稿 ～へき地から世界へ～

### ☆推薦文☆

栗林先生は、地域医療を実践する多忙な毎日の中で、自身が経験した症例について文献を検索しつつまとめ、立派な英文論文に仕上げました。複数回の *Reject* にもあきらめずに、根気強く修正、投稿を重ね、最終的に *Accept* を獲得されました。その不屈の精神には大変感銘を受けました。きっとこれからも、どのような困難にも打ち勝って道を切り開いていくであろう栗林先生の姿が想像できます。この症例は、当初蜂窩織炎と診断され加療されていた症例が、実は *B* 細胞リンパ腫であった、というもので、ともすると頻度の高い疾患と思い込んで *Clinical inertia* に陥りがちな日常診療に、警鐘をならす論文として仕上がりました。栗林先生の今後のますますのご活躍に期待しています。

自治医科大学医学部皮膚科学講座 小宮根 真弓

### 栗林 完 (鹿児島県 43 期卒業)

鹿児島 43 期の栗林完と申します。この度、私が鹿児島県立大島病院勤務時に経験した症例が *Journal of Cutaneous Immunology and Allergy* に掲載されましたので、この場をお借りしてご報告とお礼を申し上げます。

鹿児島県立大島病院は多くの自治医大卒業生が最初に勤務する臨床研修病院であり、奄美群島の中核病院として機能しています。消化器内科、循環器内科、脳神経内科以外の内科全般を総合内科が担当していました。血液・呼吸器疾患に関しては県本土とのカンファレンスや専門外来を通じて診療方針を決めていました。

私が本症例の患者様にお会いしたのは、医師 3 年目に総合内科に勤務していた時でした。近医で数年来、下腿蜂窩織炎様の病態を繰り返しており、その都度抗生剤による治療が行われていました。数週間前から多発腫瘤を伴い、当科へ紹介受診となりました。各種検査の結果、原発性皮膚びまん性大細胞型 *B* 細胞リンパ腫、下肢型 (*primary cutaneous diffuse large B-cell lymphomas-leg type*) の診断で化学療法を行う方針となりました。治療開始後、下腿の病変は順調に縮小していきました。病変が縮小する様子を見て、ご本人の喜ばれる姿は今でも忘れられません。しかしながら、治療の経過中に腫瘍崩壊症候群、たこつぼ心筋症、敗血症性ショックなどを併発され、残念ながら最終的には多臓器不全のためご逝去されました。

当時の私は、この方が闘病された証を後世に残したい、論文化したいと考えました。これだけ稀で重篤な経過を辿ったのだから、症例報告になるに違いないと考えておりました。鹿児島の先生方が *CRST* を利用されているのを知り、私も相談させていただきました。学生時代からお世話になっていた *CRST* 事務局の阿江竜介先生から素早い返信をいただきました。また、稀な症例だから論文になるわけではない、悪性疾患の最終局面では様々な事象が起きうるということを *CRST* 代表の松原茂樹先生に教えていただき、前述の私の考えは間違っていたことを痛感しました。論文化にあたって、皮膚科学講座の小宮根真弓先生から何度もメールで丁寧なご指導をいただきました。最初に患者様にお会いしてから約 3 年が経過し、無事に *accept* に至りました。reject が続き、諦めかけたこともありましたが、歴代の *News Letter* に投稿されている諸先輩方の取り組みが、大変励みとなりました。

これまでの *News Letter* にもあるように、自治医大卒業生は、へき地勤務もあり論文指導を受ける機会が少ない現状があります。私は現在、鹿児島県にある十島村・三島村という常駐医師不在地域へ巡回診療を行って



おります。村へのアクセスは週 2-3 便の定期船に限られており、移動には 3~13 時間を要します。今回の論文は船の移動時間も活用して作成しました。私一人の力では到底 accept には至らなかったと思います。へき地勤務をしながら症例報告ができたのは CRST のサポートがあったからです。各種 AI ツールも進歩する昨今ですが、論文作成に迷われている方は、一度 CRST にご相談されてはいかがでしょうか。

CRST 事務局の先生方、紹介いただいた前医の先生、ご指導くださった上級医の先生方に、この場を借りて改めて心より御礼申し上げます。引き続き医療の谷間に灯をともし医師を目指して精進してまいります。

Kuribayashi T, Komine M, Baba M, Ohnou N and Morita Y (2025) Diffuse large B-cell lymphoma misdiagnosed as cellulitis. J. Cutan. Immunol. Allergy 8:14541. doi: 10.3389/jcia.2025.14541

[発行] 自治医科大学大学院医学研究科  
地域医療オープンラボ運営委員会  
事務局 大学事務部学事課 〒329-0498 栃木県下野市薬師寺 3311-1  
TEL 0285-58-7476 / FAX 0285-44-3625 / e-mail openlabo@jichi.ac.jp  
<https://grad.jichi.ac.jp/>